YU-INFORMATION
No.126
山口大学広報誌

3
2016

Special Feature

ヤマダイノトリセツ

YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学

YU-INFORMATION
No.126
山口大学広報誌

3
2016

cover story

［今月の表紙］

総合図書館にある"りぶカフェ"にはテラス席があり、天気の良い日には暖かい陽射しを浴びながら憩う事ができます。
間もなく、新入生が学内をイキイキと歩き始め、今年は国際総合科学部の留学生100名も世界中からやってきます。創基201年目がスタートした山口大学の景色が変わります。
共通教育課程を終え、それぞれが自分の専門へ進む彼らの手元には「ヤマダイノトリセツ」があります。これは与えられるものではなく、同じものは二つとない、彼らがそれぞれ作り上げて来たものですが完成はまだまだ先です。
これから始まる大学生活では、一つではなく、それがあるのかも判らない答えを見つける勉強が始まります。ヤマダイでの生活をスタートさせた新入生の皆さんも、自分の「ヤマダイノトリセツ」を造ることを始めませんか。

contents

03

今月の特集｜ヤマダイ ノ トリセツ

ようこそ！知の拠点 山口大学へ。
山口大学 学長　岡 正朗

学生支援に特化した「山口大学基金」
山口大学 基金事務局室長、理事・副学長（総務企画担当）
古賀 和利

10 山口大学山口学研究センター

11 学生が企画・運営できる！
【大学祭実行委員会】
山口大学大学祭実行委員会 2015年度委員長
教育学部2年 金澤 駿

12 地域と学生の架け橋。
【地域活動お助けターミナル メディエーター】
地域活動お助けターミナル メディエーター 総代表
人文学部2年　水元 愛香里
地域活動お助けターミナル メディエーター 山口大学代表
経済学部1年　松山 紗良

13 What's New? YU-PRSS

14 EVENT SCHEDULE

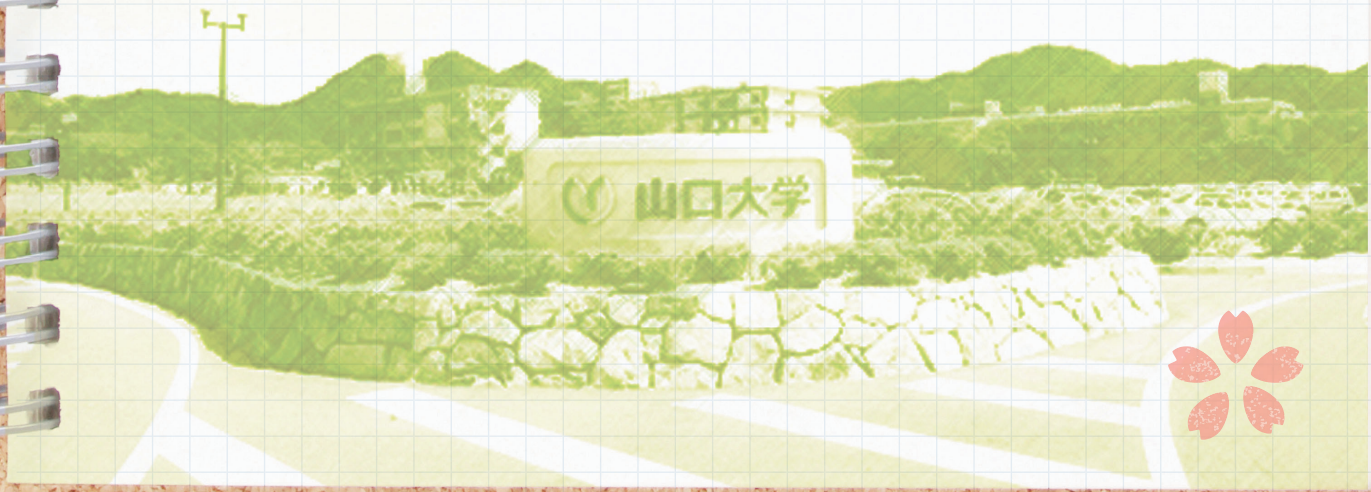
文責：株式会社 無限

Special Feature

ヤマダイノトリセツ

Instruction Manual

昨年、山口大学は創基200周年を迎え、"新生"山口大学として新たな歴史を刻み始めました。
またその歴史を認識するとともに、大学変革としてさまざまな取り組みもスタートしました。
これから始まる大学生活が豊かになるような「ヤマダイノトリセツ」の説明を、山口大学の新入生となった皆さんや在学生の諸君、支えていただいている地域の方々へ、山口大学の卒業生でもある岡学長、古賀副学長から熱いメッセージと山口大学の取組みで語っていただきました。



ヤマダイノトリセツ #1

Special Feature ▶ Manual of Yamaguchi University

ようこそ！知の拠点山口大学へ。

もうすぐ桜が咲き誇り、いっそう華やかな季節を迎えます。山口大学も、若さと希望に満ちあふれた新入生を迎え、キャンパス全体が生き生きと華やいでいるようです。昨年は、創基200周年という記念すべき年を迎え、全学的な改革がスタートしました。引き続き、グローバル化、イノベーション、地域貢献をキーワードに、さまざまな取り組みが行われます。山口大学の今の姿、新入生や在学生・卒業生を含めた地域の方々への熱いメッセージを岡学長からお届けします。

山口大学　学長
岡 正朗　Masaaki Oka

Profile

1981年 山口大学大学院医学研究科修了。医学博士。専門は消化器外科。山口大学大学院医学系研究科教授、同大学医学部附属病院長などを歴任。2014年4月より現職。

地域とともに 時代とともに 未来をひらく

時代を超えて 受け継がれる知のバトン

山口大学は、1815(文化12)年、長州藩士・上田鳳陽先生により創設された私塾「山口講堂」を源流とし、これまで数多くの優れた人材を輩出し、先端的な研究成果をあげてきました。9学部9研究科(2016年3月現在)を擁し、総学生数1万人を超える地域の基幹総合大学として、特色ある教育・研究・地域貢献活動を展開しています。

本学は、明治維新を成し遂げた地にあります。昨年は、NHK大河ドラマ「花燃ゆ」で脚光を浴びたこともあり、山口の魅力や歴史を広く全国に知っていただけたのではないかと感じています。この明治維新発祥の地に根づく挑戦と変革の精神は、本学の理念である「発見し・はぐくみ・かたちにする　知の広場」にも受け継がれています。

昨年は、グローバル化、イノベーション、地域貢献をキーワードに、全学的な改革に踏み切りました。まさに地域とともに、時代とともに歩む、本学のターニングポイントとなった年でした。文理融合の「国際総合科学部」の新設や、教育学部の教員養成課程への特化、経済学部の5学科から3学科への改組など、目覚ましい変化を遂げました。引き続き、2016年度も、人文学部および人文科学研究科の改組、教職大学院の設置、創成科学研究科の新設、医学部附属病院の新病棟建設など、さまざまな改革を推進していきます。

改革を行う上で、本学がこれまで築いてきた歴史が大きな支えになっていることを忘れてはいけません。昨年、本学は、創基200周年という大きな節目を迎えました。私も卒業生の一人として、本学の歴史と伝統を非常に誇りに思っています。これまで卒業生の方々が築き上げてきた伝統を受け継ぎ、次の100年、200年に向けて、さらに進化していかなければなりません。皆さんも、本学の一員としての誇りを持ち、新たな歴史を刻んでほしいと願っています。

グローバル時代に 求められる人材像

グローバル人材として日本の学生を見たとき、統率力や責任感といった能力は、誇るべき資質だと思います。一方で、コミュニケーション能力や積極性、課題解決能力、イノベーションを生み出す力などは不足しているといわれています。

今、第4次産業革命の時代に突入したといわれています。IoT(モノのインターネット化)により、あらゆるモノやサービスがインターネットでつながり、機械やバイオ、生活様式など、さまざまな場面において、新しい価値やビジネスモデルが生まれていく、私たちの想像もつかないような新しい世界が始まろうとしています。これからの時代に必要とされるのは、世の中にどういう問題があるのかを自ら抽出し、解決策を考え、それを実行できる力です。こうした背景から、大学では、教養教育や専門教育以外に、激しい時代の変化に対応していける柔軟性も教える必要があると感じています。

そのため、本学では、学生の主体的な学びを支援するアクティブ・ラーニングを推進しています。課題発見・解決型プロジェクトやフィールドワークなど、アクティブな学びを展開しています。大講義にもディスカッションやディベートなどを取り入れ、評価しようと議論しているところです。また、全学的かつ体系的な知的財産教育にも力を入れています。これらは、グローバル化が叫ばれる現代において有効な手法だと考えています。

皆さん“グローバル”と聞くと“海外”を連想されるかもしれません。しかし、グローバルとは、地球全体を表す言葉です。かつて、インターナショナルやボーダレスという言葉が叫ばれた時代がありました。これらの言葉には国境がありました。一方、グローバルにはそもそも国境という概念が存在しません。全ての物事を地球全体で捉えようとする概念です。

他人を蹴落として勝ち上がるのでは意味がありません。個人的には、多様性を認め合う「優しさ」も必要だと思っています。我々の10年後の目標は、性別や年齢、国籍など、さまざまな枠組みを超えたダイバーシティー・キャンパスの実現です。これには、留学生を含む全ての大学人のほか、地域の皆様も含まれています。さまざまな人々が集い、学ぶことで、多様な価値観の結びつきが生まれ、新たなイノベーションにつながることを期待しています。

地と知の好循環で地域を創生する

昨年、文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」が採択されました。いわゆるCOC+(プラス)事業です。これは、事業協働機関である自治体や民間企業・団体、大学などの高等教育機関が連携を図り、地域志向の教育プログラムを展開することで、地域の雇用を創出し、若者の地元定着を促進させる事業です。

現在、山口県内の大学などから地元に就職する若者は33%、本学に関していえば25%と非常に低い状況です。COC+は5年間の事業として採択されており、平成31年度の地元就職率が平成26年度に対して10%アップと非常に高い数値目標を掲げています。

この目標を達成するための具体策として、次の2つがあります。1つは、卒業生を県内企業に就職させること。もう1つは、知の拠点である大学において、ベンチャーを含めた新しい産業を生み出し、そこに若者を就職させることです。先程の10%アップの中には、ベンチャーを含めた新規産業も含まれています。

山大発ベンチャーには、大きく分けて2種類あります。1つは大学の技術を使ったベンチャー、もう1つは学生自らが考案したベンチャーです。後者の例として、昨年、学業の傍ら山口市阿東で「万事屋(よろずや)」を立ち上げた学生がいます。実際に地域に出向いて学ぶことで、世の中の流れや起業のヒントをつかもうと頑張っています。知識は実践することで初めて身に付けることができるもの。こうした学生のベンチャーマインドを育て、後押しすることも大学の重要な使命だと考えています。

地域のニーズに沿ったカリキュラムを導入

意外と知られていないのですが、山口県内には年商100億円以上の企業が約80社、40億円以上の企業が約200社と、優良企業が他県に比べて非常に多くあります。その企業の多くが県内の優秀な学生を欲しがっており、受け皿はある状況といえます。

県内自治体や企業が若者に求める力についてヒアリングした結果、山口県内の地域資源を理解し活用する「やまぐちスピリット」、グローカルな視点で物事を捉える「グローカルマインド」、各種情報を活用して新たな価値を生み出す「イノベーション創出力」、「協働力」、「課題発見・解決力」、「挑戦・実践力」という6つの力が浮かび上がってきました。そこで、この6つの力を軸に、カリキュラムを編成することにしました。

具体的な内容を紹介すると、1年次には、山口の歴史や文化を学ぶ「山口と世界」、自治体や企業のリーダーが講義する「やまぐちの行政・経済」、知的財産の世界を学ぶ「知的財産入門」などを学びます。2年次には、合宿形式で地域の問題点を発見し、解決を試みるアクティブ・ラーニングを取り入れています。3年次には、自治体や地元企業で実践的なインターンシップを経験します。

インターンシップや実際の就職活動を行う際には、各学生の能力を可視化した「YU Cob Cus」※と企業情報データベースを組み込んだ、「やまぐち就職支援マッチングシステム」を活用することで、互いのニーズに応じた強固で細やかなマッチングを行います。対象となるのは、今年度の新入生からですが、プログラムの一部は、2年生や3年生にも展開していく予定です。

本学の学生のおよそ30%が山口県出身、残りは県外出身者です。ですから、県内だけでなく、県外出身の学生の皆さんにも、山口県の文化や歴史、自然、産業などを学び、理解することで、ぜひ山口に対する誇りと愛着を感じてほしいと思っています。

4年後に地元就職率10%アップさせることは非常に高いハードルです。本プログラムでは、統括コーディネーター、学生キャリア教育コーディネーター、地域産学連携コーディネーターを採用し、各部局の協力を得ながら、しっかりと学生を育て、県内の就職に結びつけたいと考えています。学生をはじめ教職員や保護者の方々、自治体や企業の皆様の理解が得られなければこの目標は達成できません。多くのご理解、ご支援をお願いしたいと思います。

新学部をはじめとする教育機能の強化

大学改革のエンジンである国際総合科学部は2年目に突入します。秋からはいよいよ1年間の海外留学が始まります。そして、外国人留学生100名を受け入れます。キャンパス自体の景色ががらりと変わるのではないかと想像しています。大学全体がグローバル化し、ダイバーシティー・キャンパスに一歩近づけるものと期待しています。

そのほかの学部・学科および大学院研究科・専攻についても、社会のニーズに合わせた組織改革を進めます。

この4月には、人文学部・人文科学研究科については、人文的教養に裏付けられた社会人基礎力を養成するため、人文学部人文学科1学科、人文科学専攻1専攻に改組します。

教育学研究科については、ベテラン教員の大量退職を背景に、優秀な若手教員の養成

GLOBALIZATION DIVERSITY INNOVATION

や、地域や学校において指導的役割を担うリーダーの養成を目的とした、教職実践高度化専攻(教職大学院)を設置します。

医学系研究科については、4つの専攻を医学専攻(医学博士課程)の一専攻に統合し、高度な医療人材の育成に特化しました。

理系の学生については、卒業後、修士課程を希望する学生が多いため、以前から6年一貫教育を行いたいと考えていました。そこで、理工学研究科を「創成科学研究科」へと再編し、理・工・農の6年一貫教育を実現するとともに、共通教育の充実や高レベルの知的財産教育、イノベーション教育を通じて、グローバル時代に対応した理工系人材の育成を目指しています。

少子高齢化が進めば優秀な人材を確保することが難しくなってきます。ぜひ女子学生の皆さんにも、修士や博士課程、さらには研究者の道も視野に入れてほしいと思っています。

地域の価値を掘り起こす山口学研究センター

就任して2年の間にいろいろな方に出会い、山口県の素晴らしさを再確認すると同時に、総合大学である本学の強みを生かして、地元に対して何か具体的なアクションを起こしたいという思いが次第に強くなっていきました。そこで昨年12月、念願の「山口学研究センター」を設立しました。

山口学研究センターは、自然や文化、歴史、産業、観光など、山口県におけるさまざまな分野の研究を推進し、その成果を地域貢献につなげることを目的としています。本学の教職員を対象に、山口県をフィールドにした文理融合の新たなプロジェクトを公募し、これまでに20件の応募がありました。どれも魅力的なものばかりで、私自身これからの展開にワクワクしています。

中でも印象的だったのが、宇部市出身の日本画家で重要文化財復元の第一人者である馬場良治さんを中心に展開する、山口県における修復の研究です。人文、工学、医学など、さまざまな分野の研究者がタッグを組み、世界に通用する研究を進めようとしています。

自治体と協働で取り組むものもあります。平安時代から約200年にわたり貨幣の鋳造が行われていた山口市鋳銭司を発掘し、当時の人々の暮らしを明らかにしようとする、地元に根付いたユニークなプロジェクトです。地域住民の皆様とともに活動することで、地域と大学との交流がさらに深まることを願っています。

このように、山口がキラリと光る素晴らしいアイデアがたくさん寄せられています。先生方には、自由に、楽しく研究していただきたいと思っています。山口県の素晴らしさを学術的に解き明かし、そこから得た知見を教育に生かせるものと大いに期待しています。

つながりが育む未来

創基200周年記念事業の一つとして創設した「山口大学基金」による学生支援が4月より始まります。返還を必要としない奨学金の給付や、学生の海外留学支援、外国人留学生の支援など、学生の就学支援に特化しています。経済的な問題を抱えている学生の皆さんに、ぜひ活用していただきたいと思います。

大学時代の醍醐味は、いろいろな人との出会いにあります。仲間や先生、地域の方々など、これまで以上に多くの人との出会いが待っています。新入生の皆さんには、さまざまなつながりの中で、自分を大きく成長させていってほしいと願っています。

海外も含めると、本学の卒業生は約10万人に上ります。本学で学んだ仲間や先輩、後輩の絆は、同窓会組織などを通じて、脈々と受け継がれています。そうした卒業生の皆様にも誇りをもっていただけるような大学へと発展し続けたいと思っています。

最近、国際総合科学部を中心に、積極的な学生が増えているように感じます。やはり、若い力は素晴らしいですね。学生が頑張っている姿を見ると、地元の方々も喜んで応援してくださいます。まだまだ足りない部分もありますが、これからも学生を積極的に地域に送り出し、地域に開かれた大学として歩んでいきたいと思っています。

成長するチャンスはできるだけ多く用意します。ただし、成長するのはあなた自身です。共に学び合い、高め合い、実り多い学生生活を送ってください。皆さんがそれぞれの能力を存分に発揮し、大きく成長することを心から期待しています。

※ディプロマ・ポリシーとして設定した能力を、学生がどの程度修得しているかを定量的に示し、可視化する山大オリジナル教育システム。

人とのつながりや
チャンスを生かして
未来へ羽ばたこう！

ヤマダイノトリセツ #2

Special Feature ▶ Manual of Yamaguchi University

学生支援に特化した「山口大学基金」

山口大学は、創基200周年記念事業として「山口大学基金」を創設し、今年4月から事業を開始します。そこで、基金設置の目的や活用方法などについて、古賀副学長にお話を伺いました。

理事・副学長（総務企画担当）
山口大学基金事務局室長（2015.7～）

古賀 和利 Koga Kazutoshi

Profile

1976年 山口大学工学研究科修了。工学博士。専門は電気工学。山口大学教育学部教授、同大学副学長補佐などを経て、2013年11月より現職。

200年におよぶ人材育成

山口大学は、東京大学、東北大学に次いで３番目に歴史のある国立大学です。山口での学問発展を目的に創設された私塾「山口講堂」を始まりとし、さまざまな学制改革を経て、９学部９研究科（2016年3月現在）からなる総合大学にまで発展しました。昨年は創基200周年を迎え、本学がこれまで歩んできた道のりについて振り返る良い契機になりました。

吉田松陰先生に代表されるように、山口県は古くから教育に熱心で、人材育成に投資する気風が広く根付いています。日本初のグローバル人材ともいえる長州ファイブ※もそのうちの一つです。先人たちの志や熱心な教育風土は、未来に引き継ぐべき財産といえます。

こうした精神を受け継ぎ、新たな200年の礎を築くことを目的とした「山口大学基金」を創設しました。

今年度からの事業開始に向けて、正式に事務局を立ち上げたのは昨年の7月。職員を配置し、学生支援課と相談をしながら、原案を作って議論し、昨年9月に最終的な活用方法を決めました。当初、使途については、学生支援、研究者支援、学内環境整備の３つを考えていました。しかし、企業にお話を伺った際、「建物などではなく、学生さんに直接支援をしたい」という声が多く寄せられたため、見直しを検討しました。

本学では、約45％にあたる学生が奨学金を受けており、休学や退学を余儀なくされている場合もあり、経済的に困窮している学生がたくさんいます。また、アジアから多くの外国人留学生も学んでいます。このような背景から、基金の活用については学生支援に特化することに決めました。今年４月に入学する学生から順次適用していきます。大学の大きな存在理由でもある人材育成に活用されるのは、とても喜ばしいことだと思っています。

大学を取り巻く状況

国から潤沢な予算があてられているわけではありません。法人化された平成16年度以降、主要財源である国からの運営費交付金は削減されており、大学運営は厳しい状況にあります。研究費については、科学研究費など外部からさまざまな資金を獲得しています。しかし、今後も大学の教育・研究活動を充実させていくためには、各大学が独自の戦略で外部資金を増やしていくことが必要とされています。こうした背景から、寄附金をお願いしてまわることも、大学の重要なミッションだと捉えています。現在、目標額である10億円に対して、4億7,800万円が寄せられており、大変ありがたく思っています。皆様からいただいたご厚志は、学生支援に大切に使わせていただきます。

本来であれば、基金の運用益を財源に事業を行うのですが、現在の金額では、運用益だけで学生を支援することは不可能です。さらに、マイナス金利時代に突入したため、困難な状況にあります。現在、山口大学教職員を対象とする毎月1コインからの学生支援募金や、古本の買い取り価額をご寄附いただく山口大学古本募金なども実施し、広く浅く支援を募っています。山口大学へのご寄附については、個人、法人を問わず、寄附金控除の対象となります。教職員をはじめ、卒業生や企業の皆様など、ぜひとも多くの方々に趣旨をご理解いただき、学生へのご支援をお願いしたいと思っています。

学生支援の内容について

山口大学基金による学生支援事業としてまず挙げられるのが「七村奨学金」です。これは、本学の経済学部の卒業生である七村守さんからのご厚意によって創設された奨学金制度です。経済的な理由を抱えた優秀な学生が安心して勉学に励めるよう、返還を必要としない給付型の奨学金を支給するものです。

七村守さんは、国内トップクラスのインターネット広告代理店株式会社セプテーニの創業者で、数多くの優良企業を傘下に持つ株式会社セプテーニ・ホールディングスの名誉会長でいらっしゃいます。ご自身も学生時代に奨学生として学び、授業料免除を受けていたことから、「経済的に困っている学生をぜひ支援したい」という大変ありがたいお申し出をいただきました。

対象となるのは、今年度以降入学する学部生や編入生で、経済的に困窮しており、授業料免除を受ける人が前提です（ただし、外国人留学生は除きます）。支給は毎年度10名以内で、支給額は年間63万円。支給期間は4月からの1年間を単位として、入学年次から学部修業年限の４年間（医学部医学科および共同獣医学部は6年間）としています。毎年度、経済的困窮度および学業成績の状況を確認し、翌年度の支給を判断します。

奨学金が学生を甘やかすことにつながっては意味がありません。そこで、夏休みと春休み期間の３カ月を除く９カ月で毎月７万円を支給することにしています。残りはアルバイトを経験して、お金を生むことの大変さや大切さも体得してほしいと思っています。

※1863（文久3）年、伊藤博文、井上馨ら長州藩の5人の若者がイギリスに密航留学。帰国後、それぞれが日本の近代化に大きく貢献した。

新たな２００年へ！
未来を支える
人材育成のために

このほかにも以下のような支援も行う予定です。

「困窮学生への経済的支援」

日本学生支援機構の奨学金受給者で、留学や長期インターンシップなどを理由に進級できず、奨学金支給が停止となった学生への支援や、授業料免除および奨学金を受けられず、経済的な理由により、授業料の納付が困難となった困窮学生への支援。

「学生の海外派遣支援」

グローバル社会に対応できる人材を育成するため、学生の海外留学にかかる経費を支援。

「外国人留学生への支援」

大学院に在籍する私費外国人留学生で、支給額は月額45,000円。支給人数は毎年度10名以内。

「課外活動への支援」

全国的に活躍した学生団体のうち、大学教育機構長の推薦により学長が決定した学生団体には、表彰と同時に1団体につき10万円を支援。

寄附に関しては、同窓会組織に頼っていた部分が大きかったと思います。しかし、我々より若い世代になってくると、同窓会組織を維持すること自体がだんだん難しくなっていくのではないかと思われます。同窓会組織と並行して考えるのは難しいかもしれませんが、卒業生の皆様とつながりを保ちながら支援体制を整えていくことも、今後大学のシステムとして取り入れる必要があると感じています。文化の違いが影響しているのかもしれませんが、欧米の大学は卒業生からの寄附金が潤沢だと聞きます。将来を担う人材への投資は、未来への投資につながります。七村さんのように、支援をうけた学生の皆さんが社会で成功し、母校である山口大学にご支援いただき、継続的に良い循環を生み出すことを願っています。

山口大学の８名の理事・副学長のうち４人が本学の出身者、学長も含めると５人になります。国際総合科学部の新設、山口大学基金の創設も含めて、200周年という節目にこのメンバーが巡り会わせたことを幸運と捉え、さまざまな事業に熱意をもって取り組んでいきたいと思っています。

失敗を恐れず
何事にもトライを！

2018年に明治維新150年を迎えるのを前に、「平成の薩長土肥連合」と銘打って合同で観光キャンペーンが展開されています。実は、私もそのうちの一つ、佐賀（肥前）の出身です。学生時代は山口にずっと住み続けることになるとは思っていませんでした。今は山口に来て良かったと思っています。山口は学生に対して大らかで優しい町です。これまで地元の方々によくしていただいたことに心から感謝しています。

大学は、知識の伝達だけでなく、人間教育も求められる時代に入っています。よく今の若者は指示待ち傾向が強いといわれます。その背景として、周囲が先回りしすぎて、自ら決断する場面を与えてもらってこなかったことが影響しているのかもしれません。「自由にやっていいよ」といわれると、逆に困ってしまう学生が多いようです。しかし、グローバル化に対応していくためには、自ら考え、さまざまなところに首を突っ込みながら生きていくことが求められます。

そのためには、学内だけでなく、地域に積極的に出掛けていき、学ぶことも必要です。学長がさまざまな地域や企業を訪れ、お話をするのもその一環です。おそらく地域の方も、学生が地域に出掛けてくれることを期待されているのではないでしょうか。本学では、グローバル化、イノベーション、地方創成をキーワードに、さまざまな教育改革を推し進めています。課題解決型プロジェクトやフィールドワーク、インターンシップ、地域行事への参加なども含めて、学生が地域でさまざまな経験をすることを望んでいます。

失敗はつきもの、知恵のかたまりです。企業も、貴重な失敗経験を繰り返し、進化しているわけです。私は、もともと引っ込み思案な性格なのですが、“学生だからこそやろう”と思って挑戦したことがたくさんありました。ぜひ学生の皆さんも、失敗を恐れず、さまざまなことに果敢にチャレンジしてください。

本学に入学した理由は、人それぞれだと思います。ここにいる理由をもう一度、自分に問い直してみてください。そして、さまざまなことを学び、体験して、山口大学を卒業して良かったと思ってほしい。そのためにも、山口大学基金を活用してほしいと思っています。

山口大学山口学研究センター

YAMAGUCHI Investigation

山口学研究センターとは

平成２７年１２月９日に山口大学に設置された、学長直属のセンターです。

【設置の趣旨】

山口県における自然、文化、歴史、産業、観光、流通、教育等に関する研究を推進するとともに、その成果を活用し、持って地方創生や地域社会の活性化に寄与することを目的として設置されました。

山口県をフィールドとして、産業・文化・自然・歴史などの地域資源を、様々な観点から、また、９学部９研究科という総合大学としての山口大学の強みを活かして、文系と理系の研究者が共同で研究し、文理融合など様々な視点から山口を再発見します。
この山口学研究センターは、一つのプロジェクトに複数の学部から教員や学生が参加するとともに、外部からの参加も求め、学問や組織の枠を越えて、新しいことにチャレンジするのが特徴です。

センター長 田中和広副学長

何故、今なのか

現在、我が国では国を挙げて地方創生が叫ばれています。山口県の創生のためには, まず, 山口県のことをもっと知ることが必要と考えています。
山口県の素晴らしいところを私達県民が意外と知らないことが多い。そこに住んでいる者は、当たり前の景色を当たり前のように目にしていますが、県外から来られた方にとってはその特異さや学術的価値に驚く事が多いと聞いています。
山口県の、これまでみんなが当たり前と思っていたことを、学術的に解明し、山口の様々なコンテンツに付加価値を加え、アピールしていくとともに、山口の地方創生に生かしていければと考えています。例えば、山口県の自然遺産を学術的に明らかとし、そこでの人間の営みとの関係についてその歴史的背景を含めて明らかにすることが出来れば、それを生かした観光開発や新たな産業の創生に生かすことが出来ると思っています。

グローバル化が求められている中で何故山口学か

山口で起こっている事象は、世界にも通ずると考えています。山口学は確かに山口をフィールドとした研究ですが、対象とする現象は世界中で起こっており、そこには普遍性が期待されます。
このため、山口からも世界的な発見や新たなイノベーションの種が生み出せる可能性があると期待しているところです。

「ＣＯＣ＋」事業との関連は

同事業においては、山口地域を未来志向で切り開く次世代人材「やまぐち未来創生リーダー（YFL：Yamaguchi Frontier Leader）」を育成するため、事業協働機関である高等教育機関、地方公共団体、企業等による「やまぐち未来創生人材育成プログラム（YFL育成プログラム）」を構築することとしており、山口学研究センターで取り組んだプロジェクトの成果として、「山口学」に関連する授業科目を同プログラム内に反映していくことも想定しています。また、研究に学生の参加を求め、地域に出て研究を進める中で、彼らに山口県へのアイデンティティを持たせることができるのではないかとも思っています。

具体的な取り組みは

文理融合の視点を重視した研究を推進することとして、以下の「山口学研究プロジェクト」を立ち上げました。
これらの研究プロジェクトには経費、広報、学外との調整等の支援を行うとともに、研究成果が現れた段階で情報発信し、地方自治体や地域社会に還元することで地方創生や地域活性化の取り組みに繋げていきたいと思っています。
プロジェクトの代表者は、山口大学の教員が務めますが、中には日本画家で重要文化財復元の第一人者である馬場良治さんがメンバーになっておられるプロジェクトもあり、様々な分野の研究者との共同により世界に通用する研究が進められようとしています。

山口学研究プロジェクト

研究プロジェクト名	研究代表者等	プロジェクト期間
山口県防府地域の社会変遷と古気候に着目した土砂・水災害史の編纂	理工学研究科 准教授　鈴木 素之	H28～31（4年間）
山口から始める文化財修復と日本画の新潮流	医学系研究科 教授　堤 宏守	H28～30（3年間）
「古代テクノポリス山口　-その解明と地域資産創出を目指して-」	人文学部 教授　田中 晋作	H28～32（5年間）
グローカルな視点で考える山口県の歴史・文化・自然・産業	教育学部 講師　楮原 京子	H28～30（3年間）
山口県周遊観光の活性化のための観光客動態データ収集システムの開発と活用	経済学部 准教授　野村 淳一	H28～30（3年間）

学生が企画・運営できる！
【大学祭実行委員会】

山口大学大学祭実行委員会　2015 年度委員長

教育学部　2 年

金澤 駿 さん【宮崎県出身】

高校生のとき、先生から声をかけられて生徒会活動に参加しました。参加して気付いたのは、自分からアクションを起こさなければ何も始まらないということ。そこで、当時、問題になっていた自転車の交通マナー啓発のために、交通集会を開いたり、交通だよりを作成したり、自発的な取り組みを展開しました。その結果、地域からの苦情をゼロにすることができました。また、文化祭実行委員会のメンバーにも加わり、企画内容を一新。仲間と協力してひとつのものをつくり上げていく喜びを体感しました。大学に進学しても大学祭実行委員会に入りたいと思っていました。そこで、山口大学の新入生歓迎フェスティバルの際、真っ先に大学祭実行委員会の扉をたたきました。

山口大学大学祭実行委員会は、1年生から3年生まで約60名が活動する団体です。毎年11月頃に行われる姫山祭の企画・運営のほか、4月に行われる新入生歓迎フェスティバルの企画・運営も行っています。企画書作成にはじまり、協賛してくださる企業の方やタレントさんの所属事務所との調整、模擬店出店依頼、パンフレット作りや看板作りなど、次から次へと仕事があります。

大学祭実行委員会の一番の魅力は、学生が企画・運営に携われることです。これは、ほかのサークルではなかなか体験できないことだと思います。準備するのは大変ですが、その分やりがいや達成感を感じることができます。

実は、私は、2年浪人というマイナスからのスタート。年の差もあり、最初は仲間とのコミュニケーションがぎくしゃくした時期もありましたが、独自の企画書を持ち込んだり、自分にできることをアピールしたりしていくうちに、周囲から認めてもらえるようになりました。また、1年生のときから同い年である3年生と仲良くすることができました。3年生は大学生活に慣れ、学内外の人々とも広く交流しているので、そのおかげで、市役所や地域の方々とも直接交流ができるようになりました。大学祭をつくり上げていく中で深めたさまざまなつながりは、私にとって大きな財産となりました。

School festival Executive Committee

もともと頼まれるとイヤとはいえない性格。2年生のとき、周りに背中を押されて大学祭実行委員長に就きました。1年生のときは、先輩から与えられた仕事をこなせば良かったのですが、委員長になると、全体を把握してステージや新企画など、各部署のリーダーに仕事を振り分けなければなりません。人に仕事を任せること、チームをまとめることの難しさを痛感しました。

昨年は、創基200周年という記念すべき節目に巡り合わせたこともあり、さまざまな働きかけも行いました。体育会会長や文化会会長、七夕祭の実行委員長、常盤キャンパスの常盤祭実行委員長、小串キャンパスの医学祭実行委員長といった横の連携を深め、イベントとしての相乗効果を高める方法を協議しました。

また、北広島町の観光PRブースを受け入れるなど、外とのつながりを広げる土台づくりも行いました。学外のさまざまな人々と積極的に関わっていくことは、本学の発展にもつながるものと信じています。

私の座右の銘は「過去をなげく今よりも、未来を変えようとする今を生きる」です。問題があれば、その問題を受け入れて、マイナスの状況をプラスに変えていくことを心掛けています。どんな場面においても、与えられたものだけでなく、自らが働きかける“プラスαの生き方”で勝負していきたいと思っています。まだまだ自分探しの途中。あと2年間でどこまでやれるか分かりませんが、自分をとことん試してみたいと思っています。皆さんも、ぜひ山口大学大学祭実行委員会に参加して、今しかできない貴重な体験をたくさん積み重ねていってください！

仲間と一緒に達成感を味わえるのが醍醐味です！

地域と学生の架け橋。
【地域活動お助けターミナル メディエーター】

地域活動お助けターミナル メディエーター　総代表

人文学部　2年

水元 愛香里 さん【宮崎県出身】

地域活動お助けターミナル メディエーターは、地域イベントや催しのサポートに携わる学生ボランティアスタッフです。20年以上前に発足し、山口芸術短期大学、山口学芸大学、山口県立大学、山口大学の4大学合同サークルとして活動しています。現在、1年生から4年生まで200人近いメンバーが登録しており、そのおよそ半分が山口大学の学生です。

ボランティア活動の魅力の一つは、他大学の学生や地域住民の方々など、さまざまな人との出会いがあることです。いろいろな価値観を持つ人から刺激をもらうことで、自分の視野を広げることができます。活動を通じて、地域を活性化するためにこんなにもたくさんの人々が頑張っていること。大人になっても仕事だけが全てではないこと。好きなことをしていると、こんなにも輝けるのだということを知りました。好きなときに参加できるのも魅力です。地域から依頼があったボランティアをメールで一斉送信して、自分が希望するボランティアを選べるシステムをとっているので、縛りがありません。

また、学生のアイデアをカタチにできる場面もあります。昨年のアートふる山口では、高校生と一緒にちょうちんづくりを企画しました。山口市中心商店街を盛り上げるため、小学生を対象にした職場体験の企画・運営やチラシの作成なども行いました。

幹部になると、地域の方との電話やメールでのやりとりが増え、会議に参加することも出てきます。メールの打ち方一つをとっても学ぶことが多く、とても勉強になります。あるとき、地域の方から「あなたがいてくれたから助かった」という言葉をいただきました。その一言で、自分が役に立てたことを実感できました。ボランティアには金銭的な対価はありませんが、普段の生活では味わえない喜びや達成感を得ることができます。ぜひ皆さんも、活動を通じて、人とつながり、自分自身を成長させてください！

Terminal editor

地域活動お助けターミナル メディエーター　山口大学代表

経済学部　1年　**松山 紗良** さん【山口県出身】

先輩たちの和気あいあいとした雰囲気に惹かれて、友達と一緒に入りました。最初は、地域の方々とどう接すればいいのか分からず、とまどうこともありましたが、先輩方のアドバイスもあって、徐々に距離を縮めていくことができました。活動を通じて、ほかの大学の学生がどんなことを学んでいるのか、地域ではどんな活動が行われているのか、外の世界を知ることができたのは大きな収穫でした。

思いがけない体験ができることもあります。カヌー教室のボランティアでは、実際にカヌーを漕いで楽しむことができました。山口市中心商店街で行われた職場体験では、「子どもと大学生、地域の人がつながって、一つのことをできるのはいいよね」と地元の方から声をかけていただき、感激しました。地域とのつながりを感じた瞬間でした。

もともと消極的なタイプなのですが、ボランティア活動を通じて、率先して行動する力が身に付いたように思います。コミュニケーション力や企画力なども養うこともできました。今年度は山口大学の代表として、みんなをまとめなければいけません。苦手意識を克服して、大きな声でテキパキ行動することを心掛けたいと思っています。将来、この体験を仕事にも生かして、地域の人々と関わっていきたいと思っています。

目的意識を持ってボランティアに参加すると、吸収できるものがたくさんあります。まずは自分にできることや自分がしたいことを探して、気軽に参加してみてください！

他大学や地域との楽しい出会いが待っていますよ！

松山 紗良さん

水元 愛香里さん

YU-PRSS

《 学生スタッフYU-PRSSがお届けする、山大の最新情報 》

YU-PRSSとは？
ユープラス

広報誌「YU-INFORMATION」や、山大のWEBサイト内の「キャンパスライフ」ページなどの制作に携わる、山口大学広報学生スタッフです。

YU-PRSS（“Yamaguchi University Public Relations Student Staff”の略）は、「山大生のあなた（YOU）にも、そうでないあなた（YOU）にもプラスになる情報を届けたい」との想いを込めてつけられました。現在25名のメンバーで広報活動を行っています。

YU-PRSSメンバー

中冨 真奈	原田 海沙	木村 将也
長岡 真大	横山 侑里	徐 睦美
倉増 沙和	浅沼 萌	房野 仁美
田里 翔太	近藤 守	北山 育実
武田 一志	佐能 潤子	鳥田 苑実
小形 智樹	伊藤 姫花	家永 葵美絵
中山 拳太郎	大熨 新	佐藤 加奈
篠田 侑果	中矢 早映	
高松 安奈	宮地 弘子	

感想、取材依頼など、YU-PRSSにお気軽にメールしてください！

今月号についての感想や、今後こういった特集はどうだろうといったアイデア、こんな人を取材してほしいといったご要望も受け付けています。また、「私たちを取材してほしい」といったサークルやグループも大歓迎です。たくさんのメールをお待ちしています。

E-MAIL：campus@yamaguchi-u.ac.jp

「キャンパスライフ」はコチラをCHECK! >>
http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~campus/campus_life%20_web/

01 ツリー点灯式

Xmasツリー点灯式Christmas with you ～500年の時をこえて
2015年12月1日、山大吉田キャンパスでクリスマスツリーの点灯式が行われました。約500年前に日本で初めてクリスマスが行われ、当時の当主大内義隆と宣教師フランシスコ・ザビエルに大きな絆が生まれました。山口大学も創基200周年を迎えたことを契機に地域と大学が繋がるきっかけになるイベントを行いたいと、山口大学CAMゼミの学生達が企画しました。
ツリーは12月25日(金)まで、17時～22時の間点灯されました。

02 管弦楽団演奏会

2015年12月20日に「山口大学創基200周年記念　山口大学管弦楽団定期演奏会」が山口市民会館ホールで開催されました。58回目となる今回の演奏会では「コリオラン」、「スラブ行進曲」、「交響曲第一番　ハ短調」の3曲が演奏されました。バイオリンやチェロ、ホルン、フルートなどたくさんの楽器の音が見事なハーモニーを奏で、どの曲も力強く迫力満点の演奏でした。
客演指揮者には、国際的に指揮活動をしておられる川本貢司さんが招かれ、「交響曲第一番　ハ短調」の指揮をしていただきました。川本さんは8月から山大管弦楽団のみなさんと練習を重ねておられました。約4ヶ月という短い期間で試行錯誤し、色々な課題を乗り越えて演奏会に臨まれたそうです。
団員の方々は、「たくさんの方々に演奏を聴きに来て頂いてとてもうれしい。今までで一番素晴らしい演奏会だった。」「200周年に相応しい演奏ができて良かった。」と話しておられました。
次回の演奏会は2016年5月4日(水)に宇部市で行われる予定です。

03 コンソーシアム人材セミナー

1月21日（木）に山口大学吉田キャンパス、メディア講義室において「第14回コンソーシアム人材セミナー　in-山口-」が開催されました。(中継会場　常盤キャンパス)
これは、未来を拓く地方協奏プラットフォーム（HIRAKU）の事業の一環として、大学研究推進機構が主催したもので、教職員、学生あわせて約50人の来場がありました。
講演では　株式会社・秋川牧園会長　秋川実氏をお招きし、「健康を育てる・・健康を科学する」といった演目でお話をして頂きました。
秋川氏は講演の中で、秋川牧園のルーツについて触れながら、安全な食べ物を視野に入れた「鶏の無投薬飼育」や、「生活提案・栄養提案・献立提案・家計提案」などといった取り組みなど、様々な面から消費者の健康をめざす取り組みについて語りました。
次回は2月3日、広島大学　東広島キャンパスで開催予定です。

YU-INFORMATION
ワイユーインフォメーション
山口大学広報誌　Vol.126

山口大学総務部広報課
〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1
TEL：083-933-5007 FAX：083-933-5013
E-MAIL：sh011@yamaguchi-u.ac.jp
URL:http://www.yamaguchi-u.ac.jp/

News & Topics

04 地域未来創生

1月23日(土)に山口大学吉田キャンパス　共通教育棟1番教室において、「第1回　地域未来創生・ふるさと教育講演会」が開催されました。
この講演会は、子供たちが「ふるさと山口県」に誇りを持ち、将来の地方創生を担う人材としての成長を期待して行われたもので、地域未来創生・ふるさと教育講演会実行委員会が主催したものです。
講師には、第一回に相応しい村岡嗣政山口県知事を迎え、「元気な山口県づくりに向けて」といったテーマで講演がありました。

知事は講演の中で、自身の経験談について触れながら、自ら目標を高くして頑張る事の大切さを語りました。地元の小学生から大人まで約400人の来場があり、参加者からは「(知事の)一つの事をやり通すという気持ちが凄いと思った」等の感想が寄せられました。

05 防府天満宮まめまき

2月3日(水)、防府天満宮で節分祭・牛替神事が行われました。
節分祭・牛替神事は防府天満宮で毎年節分の時期に行われるもので秋の御神幸祭に供奉する神牛役を神くじにより決めるものです。

この祭りのメインである開運豆まきは山口県のゆるキャラと今年の福男・福女の皆さんが参加することで有名です。山口大学のマスコットキャラクターのヤマミィも参加しました。
豆まきの掛け声は「鬼は～外、福は～牛！」と牛替神事にちなんだアレンジで行われ、ヤマミィもたくさんの豆を参加者に投げて頑張っていました。

06 自主活動交流会

2月8日(月)に第二学生食堂きららにおいて、「自主活動交流会」が開催されました。
この交流会は、山口大学後援財団が後援、大学教育機構学生支援センターが主催したもので、4つのセッションごとにメンバーが替わるというワールドカフェ方式で行われました。

当日は、全学から40人の学生が集まり、山口大学のこれからの正課外活動について話し合いました。「未来の山口大学では、正課外活動で単位がもらえる」「オンラインで教室予約ができる」など興味深い意見が沢山集まり、非常に有意義な交流会となりました。

EVENTSCHEDULE ［イベントスケジュール］

4 APRIL

01(金)
山口大学発明の日イベント
「美術と技術 そして知財」
場所：図書館
4/1～/24　吉田キャンパス
4/26～5/9　小串キャンパス
5/12～/25　常盤キャンパス

04(月)
山口大学大学院及び山口大学入学式
場所：山口県スポーツ文化センター

08(金)
前期授業開始

10(日)
新入生歓迎フェスティバル
場所：吉田キャンパス

20(水)
新入生歓迎「ヤマミィの日」
場所：吉田キャンパス

23(土) 24(日)
中四国学生弓道競技大会
場所：山口県スポーツ文化センター

23(土) 24(日)
山口大学文化会芸術祭
場所：山口大学大学会館

5 MAY

04(水)
山口大学管弦楽団 医・工学部管弦楽団
合同演奏会2016
場所：宇部市 渡辺翁記念会館

07(土)
山口大学マンドリンクラブ
「2016 SpringConcert」
場所：山口市民会館大ホール

6 JUNE

01(水)
創立記念日

7 JULY

09(土)
七夕祭
場所：吉田キャンパス

編集発行/山口大学広報委員会
古賀和利(副学長 総務企画担当)／Alam,Djumali(人文学部)／森下徹(教育学部)／柏木芳美(経済学部)／坂口有人(理学部)／
玉田耕治(医学部)／堤宏守(工学部)／井内良仁(農学部)／水野拓也(共同獣医学部)／向山尚志(技術経営研究科)／小川仁志(国際総合科学部)／
辻多聞(大学教育機構)／田口岳志(大学研究推進機構)／小河原加久治(大学情報機構)／中尾淑乃(総務部広報課)
企画・編集・撮影・デザイン／株式会社 無限

パティスリーププレとのスィーツ企画

山口大学在学中の学生が普段、気軽に食べる風味豊かなスイーツの開発を目指しました。

また、卒業生が社会人になってからも、そのスイーツの香りを嗅ぐと（食べると）学生時代を懐かしく憶い出し、「山口大学愛」へ繋がる商品を目指します。

平成28年6月から販売開始

Scent

良い香りという意味です。

ギモーブ

パウンドケーキ

マカロン

Collaboration sweets
YAMAGUCHI UNIVERSITY
&
peupler

各350円（税抜）

赤壁善彦先生の研究成果の活用

赤壁教授はこれまで、香りの研究を20年以上続けており、風味に着目した食材や商品開発を手掛けてきました。また、香りは、ヒトの脳に直接作用して、情動や生理応答に影響を及ぼす事を検証しています。山口県の特産品である「夏みかん」あるいは「ゆず」の風味を充実させ、より嗜好性の高いスイーツとして、マカロン、ギモーブ、パウンドケーキの開発に成功しました。

販売店

・山口大学生活協同組合（中央ショップ、工学部ショップ、医心館ショップ）・有限会社大学文具（共通教育棟・教育学部・ショップ胡桃の樹 各売店）
・文具フレンド米田（人文学部・農学部 各売店）

本で繋ぐ“未来の長州ファイブ”誕生プロジェクト

山口大学古本募金

YAMAGUCHI UNIVERSITY FURUHON BOKIN

「山口大学基金」は、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の理念のもと、チャレンジ精神や人間力とバイタリティーあふれる学生を育成し、社会へ送り出すため、学生の海外留学や奨学金の給付などの学生支援事業を行っています。
皆様が読み終えた書籍で「長州ファイブ」を輩出した山口の地から、「未来の長州ファイブ」が羽ばたきます。

皆さまからのご寄附は、学生支援事業（海外留学、奨学金給付など）に役立てられます。

お申込方法は2つ

WEBで申込む

電話で申込む

詳細は 山口大学古本募金 で検索しください。
URL:http://www.yamaguchi-u.ac.jp/kikin.html

寄附の詳細に関するお問い合わせはこちら
山口大学基金事務局
〒753-8511　山口県山口市吉田1677-1
TEL:083-933-5622　FAX:083-933-5624
E-Mail:kikin@yamaguchi-u.ac.jp